

唐長安城太液池パネル展

奈良文化財研究所と中国社会科学院考古研究所は2001年より5年間、唐長安城大明宮にある太液池遺跡の共同調査をおこないました。

唐の都長安城は現在の中国陝西省西安市に位置しています。宮城のひとつ、大明宮の北半には皇帝の庭園がひろがり、その中央に神仙の住む蓬莱島とそれを囲む海を模してつくられたのが太液池です。

しかし、太液池についての文献史料は大変に少なく、その具体的な様子を知ることは大明宮の構造や苑池の歴史、さらに日本古代苑池の源流を探究する上で大きな課題となっていました。両研究所はこの課題に取り組むために太液池の発掘調査を実施し、昨年度をもって終了しました。宮殿の苑池遺跡を対象とした大規模な調査は、中国でも初めての試みであり、成果の正式な刊行が期待されています。

この成果を平城宮跡資料館で5月27日から12月27日までパネル展示しています。日本ではなかなか見ることのできない、スケールの大きな遺跡です。この展示をとおして、中国との共同調査の様子を見ていただくと同時に、中国からあらためて日本の古代を考えるきっかけとなれば幸いです。

(都城発掘調査部 今井 晃樹)



平城宮跡資料館特設コーナーにて